

白河信用金庫の環境への取組みについて

【地球温暖化防止のための取組み】



白河信用金庫は、平成20年より、福島県知事との間で地球温暖化防止のための「福島議定書」を締結し、電気・水道・ガソリン・A重油・石油・ガス・コピー用紙等の削減に努めています。

以前より、環境重視の経営姿勢が求められることを意識し、ガソリン削減に取り組んでおりますので、取組みの一端をご紹介します。

平成17年9月本部車輛1台を環境に配慮したハイブリッド車に入替し、以後順次、入替を行い、本部車輛6台及び全営業店にあたる16店舗の店長用車輛16台、併せて22台のハイブリッド車を導入し、地球温暖化防止に努めております。

【環境配慮型店舗の開設と太陽光パネルの増設】



- (1) 平成24年11月7日、環境に配慮した店舗「西那須野支店」をオープンしました。西那須野支店には、太陽光パネル48枚を配し、10KvAの発電、8KvAの出力が可能な太陽光発電設備を設置し、営業室にはLED照明器具を使用し、営業室内の照明の使用電力量をおよそ3分の1に削減しました。その後、平成26年4月より、太陽光パネル63枚を追加し、合計111枚の太陽光パネルを備え、21KvAの出力が可能となり、発電した電気は自家消費から余剰売電に切り替えました。結果、使用電気料金とほぼ同額の売上電気料金を得られるようになっております。
- (2) 平成27年6月20日、白河市立石地区に、環境に配慮した総合施設「新白信ビル」をオープンしました。「新白信ビル」は、西支店を移設したほか、金融サービスセンター、ギャラリー館、イベントホール、会議室など地域貢献を目的とする設備も配置した4階建ての建物です。建物の屋上には、太陽光パネル168枚を設置し、23.6KvAの出力が可能となりました。また、建物内の照明はLED照明器具を使用しております。
- (3) 平成28年7月19日、白河市新白河地内の「本部」屋上に78枚、出力可能電力20.28KvA、平成28年7月29日、本部と隣接する「新白河支店」屋上に66枚、出力可能電力17.16KvA、合計144枚の太陽光パネルを新たに設置し、37.44KvAの出力が可能となりました。また、本部2階、3階の事務室の常時使用する照明をLEDに変更しております。